

要求工学

～ソフトウェア要求・要求獲得について～

Group J5

2009SE077 石田雄大

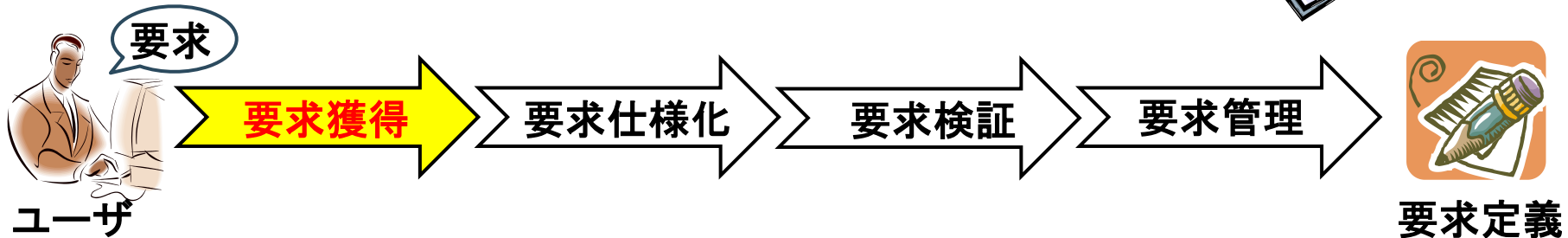
2009SE202 濁川 誠

目次

- 前回までのまとめ
- 関連研究～2011年度卒業論文～
- 関連研究～2012年度卒業論文～
- 問題点・着眼点
- 今後の方針
- 参考文献

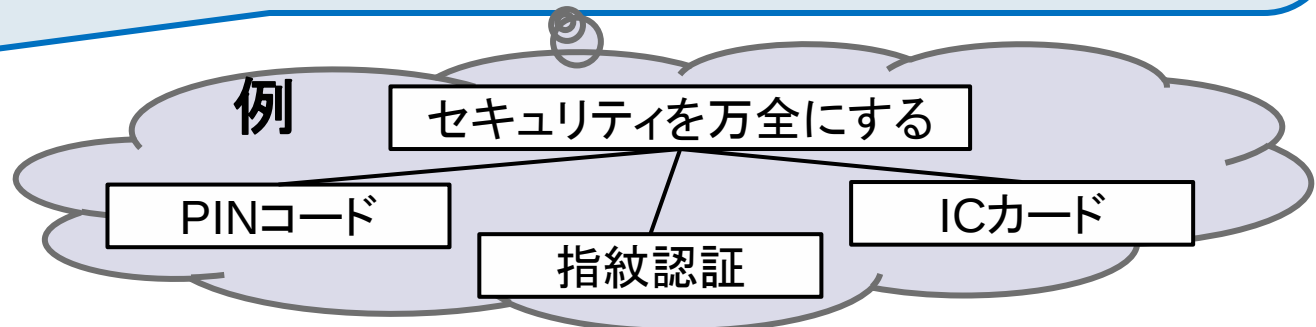
前回までのまとめ(1/4)

要求を定義する4つのプロセス



要求における問題

- ・**ステークホルダの増加**によって要求分析が困難になっている。
ex) ステークホルダの特定が不十分，要求定義のプロセスにコスト・時間がかかる
- ・各ステークホルダは要求を持っているのだが，
その要求が**抽象的(曖昧)であるため**ゴールの確定が困難になっている
ex) システムの業務効率を上げたい，セキュリティを万全にする



前回までのまとめ(2/4)

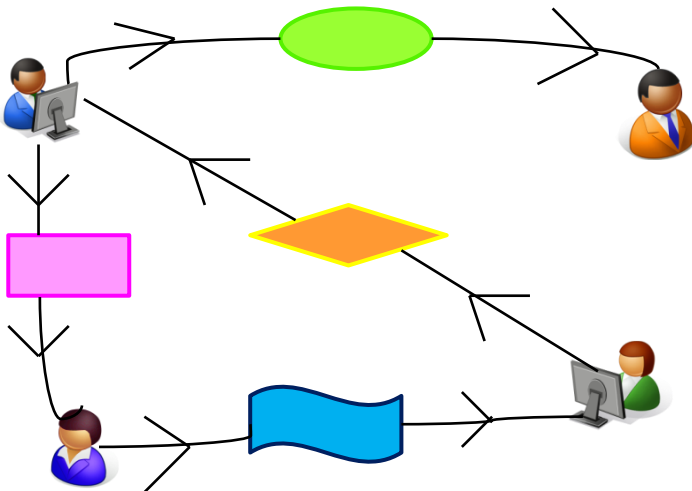
i* framework

アクタ(関係者),ゴール,タスク,ソフトゴール,リソースという5つの要素を使って現状のシステムを理解したり、開発するシステムの妥当性や効果をモデル化する手法.
SDモデルとSRモデルがある.

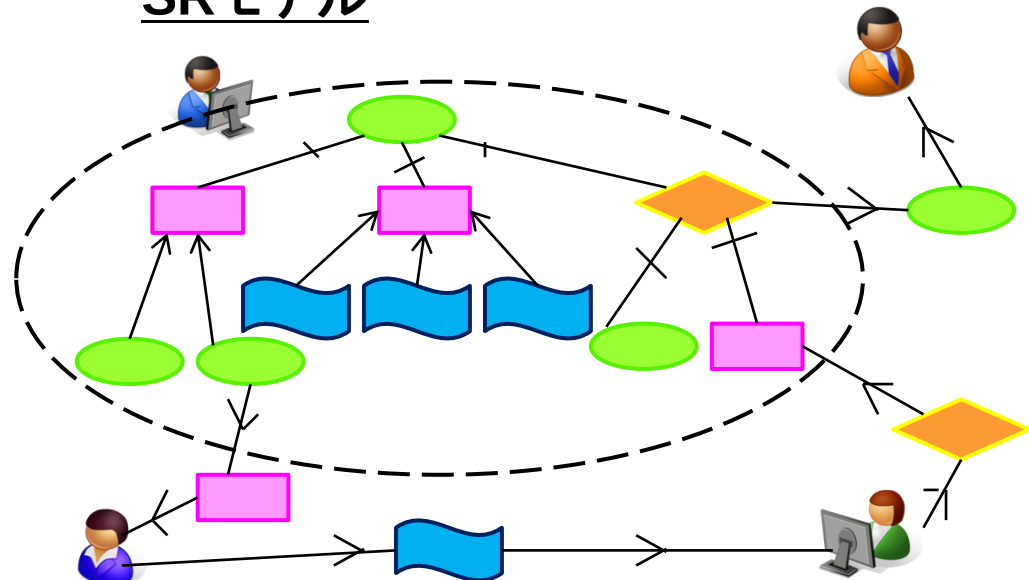


モデル	説明
戦略依存モデル SD(Strategic Dependency)	アクタ間の依存関係を分析する図式
戦略原理モデル SR(Strategic Rationale)	アクタ内の依存関係を分析し、ゴールを比較評価する図式

SDモデル



SRモデル



前回までのまとめ(3/4)

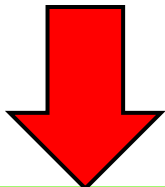
ステークホルダ分析(Stakeholder Analysis)

ステークホルダを特定し、理解するために
ステークホルダと要求との**利害関係の度合い**を分析する技術

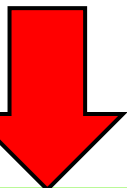
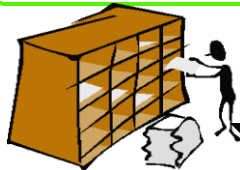


プロセス例

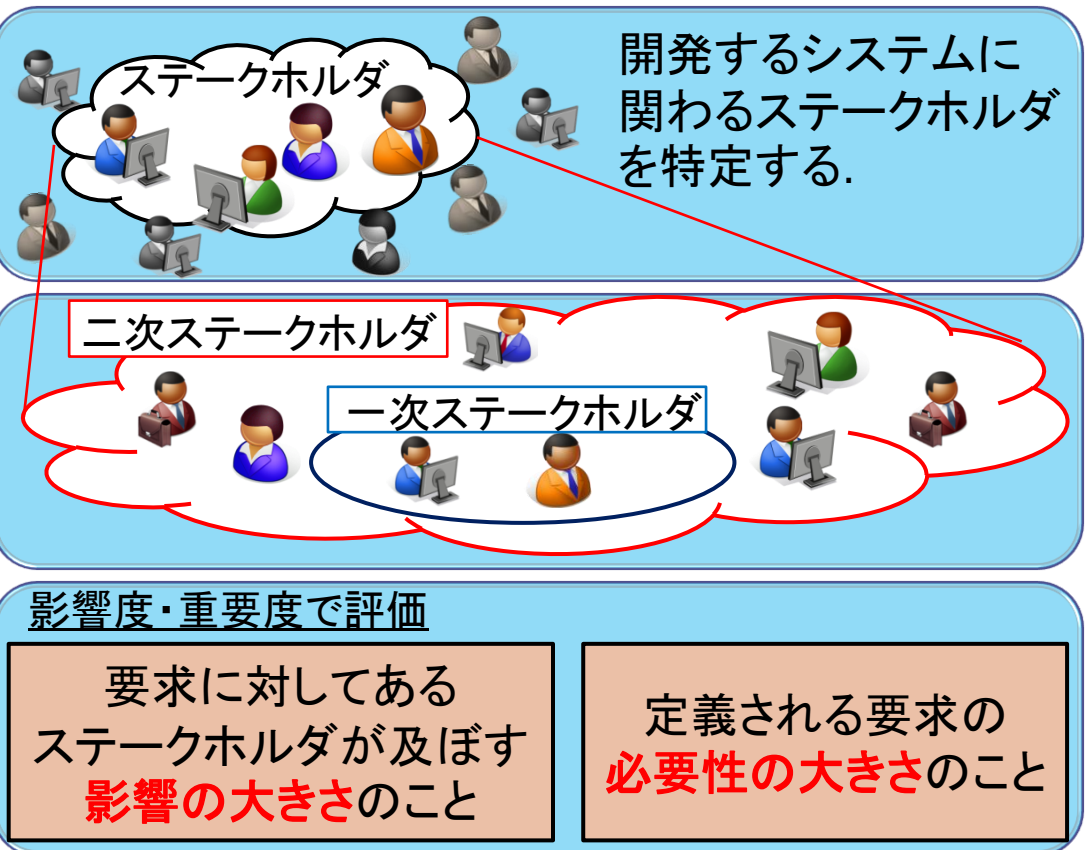
ステークホルダを特定



ステークホルダを分類



ステークホルダを評価



前回までのまとめ(4/4)



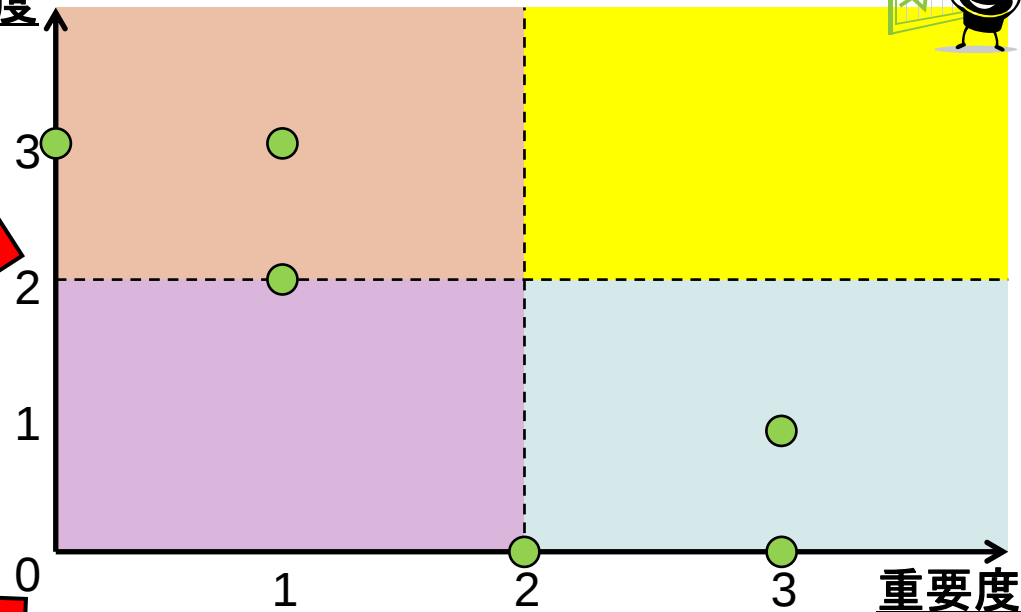
相互作用マトリクス(Interaction Matrix)

支配的かつ決定的な組み合わせを確定するために、特定された要素を相互に関連づける手法。

重要度

相互 関係	要求a	要素b	要素c	総和	商
要素a		1	3	4	0.8
要素b	2		1	3	3
要素c	3	0		3	0.8
総和	5	1	4		
積	20	3	12		

影響度



影響度

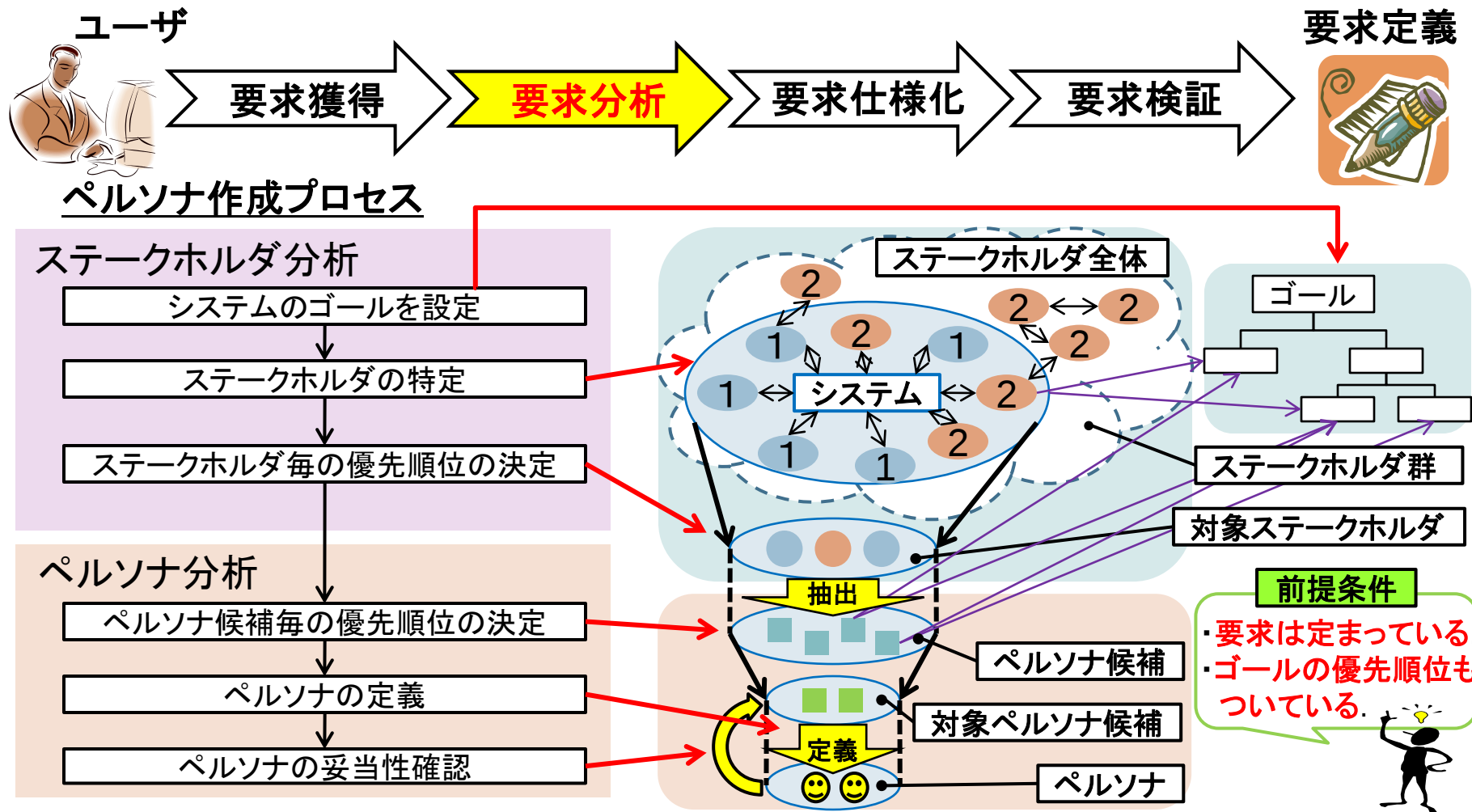
相互 関係	要求a	要素b	要素c	総和	商
要素a		2	0	2	2
要素b	0		3	3	0.4
要素c	1	3		4	1.4
総和	1	5	3		
積	2	10	9		

- [1]. 関係の整理
- [2]. 複雑性の削減
- [3]. 可視化



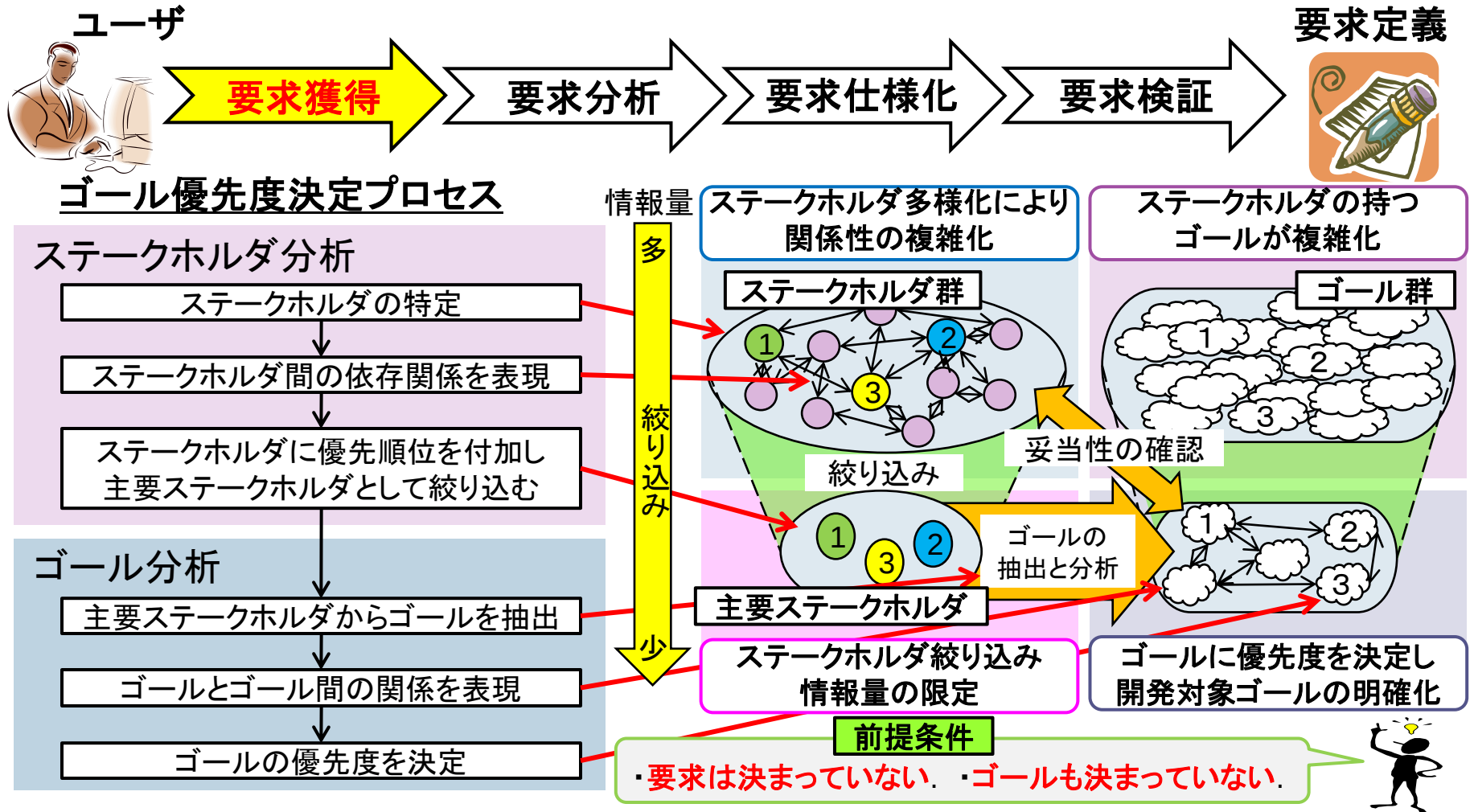
関連研究～2011年度卒業論文～

ペルソナ法に基づくユーザモデリングの方法



関連研究~2012年度卒業論文~

ステークホルダを中心とするゴール分析方法の提案



問題点・着眼点

着眼点

ステークホルダの
多様化・複雑化

ゴールの粒度

優先度付け
プロセス

ステークホルダ
自身の要求未把握

課題点

- ・開発するシステムに関わるステークホルダが多い為、分析が困難化していると言える。
- ・ステークホルダ間の関係や各ステークホルダのゴール間の関係が把握しづらい。



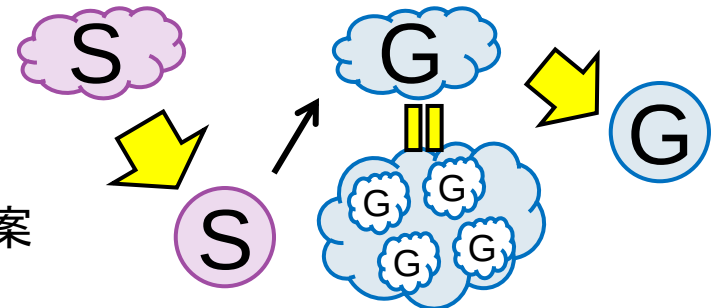
課題点

- ・木下, 山下先輩達の研究でも優先順位づけを提案しているが、詳細なプロセスは定義されていない。
- ・竹村, 小野田, 大澤先輩達の研究でもゴールは優先度付けされているという前提で研究をしている。



研究目的

- ・「ステークホルダの多様化・複雑化」を絞り込みで解決
→ 先輩の絞り込みを利用
- ・「優先順位付けプロセス」における順位付け方法の提案



今後の方針

- 具体的なプロセスの提案
- アプローチ方法の発表
- 提案方法と共に適応事例を考える

参考文献

- 要求工学
著:大西 淳・郷 健太郎
- 要求工学知識体系 (REBOK)
- 2011年度,2012年度卒業論文要旨集